
るう～ぶ～P

春野夜風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

るう～ふ

【ZPDF】

Z2970H

【作者名】

春野夜風

【あらすじ】

何か物凄いお姉ちゃんが何か凄いです。

それは永遠に終わらない」。の物語。
始まって、途中からまた始まりに戻る物語。
終わりはいつ訪れるのか。

そもそも、終わりはあるのか。

「ああ… またデータが消えてる…」

始まりに大層なこと言つてますが、ゲームがクリアできないだけです。理由は多々ある。

「弟くん！ また乱暴に扱つたの！？」

我が愛しの弟くんが大切に扱わないとためにデータが消えたり、

「違ひよ… お姉ちゃんが進めなくなつたつて言つてたから進め方を調べてたら、お母さんがコードに足を引っ掛け、ゲームが消えちゃつたの… そしたらデータが… うう… 「めんなさい…」

お母さんがよく足を引っ掛けるのだ。

「ああ… 泣かないで。ごめんね。お姉ちゃんが悪かったよ。弟くんは一回注意したらもうしないよね。お母さん…」

あひやー、やつやつたあ… よく考えたら弟くんがする筈がないなのに。でも、泣き顔の弟くんも可愛い… 食べてもいいですか…？ 包容…

「ん？ どうしたの？」

「のあー… 母さん！ びっくりしたあ…。それより！ また『一
度蹴り飛ばしたって聞いたわよー』

「急いで出でていなーでよー。もう少しで弟くんをいただきました
のに！」

「それは謝るけど、まずは涎を拭いたら？」

「私としたことが涎を垂らしてたとは…。じゅるじゅる。

「『』の際データが吹つ飛んだのはビーでもいいのー。今大事なのは
弟くんが泣いてることよー！」

カツ『良く決めてるけど、弟くんを抱きしめてハアハアしてるの
には目を瞑つてほしい。ついでに、泣かせたのはオマエだらうどい
うジックリも勘弁してほしい。

「ホントにお姉ちゃんは弟大好きねえ」

「勿論よー。悪いー？」

「言つておくけど、私はショタコンじゃないわよー。私が好きなのは
は弟くんだけなんだからー」

「悪くないわよお。さて、邪魔者は退散しましょうねえ」

「ハアハア… これで弟くんと2人きり…ハアハア…」

「ハアハア…」

・・・

「しまつたあ！ 何か上手い」と逃げられた…」

流石おぬさん。やつてくれるわね…。

「まあそれはいいわ。弟くん、一緒にゲームする?」

「でも、データが…」

そんなにシゴンとしなくても大丈夫よ、弟くん。

「！」なんともありつかとバックアップをとつておこたのよー…

わっすが私！ 私、やればできるナ…

「よし、じゃあ今度は最後までクリアあるよ」

「！」と、スイッチをぽちりとな。

「わい、弟くんは誰にさる?」

「勇者がいいなあ」

勇者の弟くん…。捕らわれのお姫様はやつぱり私…

『姫を離せー。』

聖なる剣をその手に握つて魔王と対峙する弟くん。

『その望み、叶えなければこの私を殺すしかないな』

邪悪な笑みを浮かべて玉座から弟くんを見下ろす魔王。

『望むところー。』

激しい攻防が繰り広げられ、遂に魔王は弟くんに敗れる。

『姫、いじ無事ですか？ さあ、国へ帰りましょー。』

私をお姫様抱っこして素敵な微笑みをくれる弟くん。

『国王、今戻りました』

国に帰ると弟くんは魔王を倒した英雄として迎えられ、パーティーが始まる。

『姫、私と共に踊つて下さいますか？』

私の前に跪き、手を差し伸べる弟くん。もちろん私はその手を取つて一緒に踊る。至福の一時。

『姫、いらっしゃいへ』

そのまま人ごみに紛れて2人でパーティー会場を抜け出し、その

後…

「むつふあつ！」

「どうしたの！？ お姉ちゃん！？」

「いかん…興奮しすぎて鼻血が…。

「お姉ちゃん！ 大丈夫！？」

しかし、鼻血ってホントに吹き出すんだ…。身を持つて体験してしまつとは。

「大丈夫よ、弟くん。あと、悪いんだけど掃除するからバケツに水汲んで雑巾持ってきて」

「うん。わかつた。ちょっと待つててね」

私の言つことに健気に従う弟くん…

ギザカワユス。

「ヤバい…思考が古い…」

もはや死語だ。

「さて、鼻血垂れ流しはマズいなあ

ドクドクと、止め処なく、捻った蛇口の如く、溢れ出でます。こんなに出たら私死ぬんじやない?

「もしかしなくてもヤバい?」

とりあえず寝転がつて、脚を上げてみよう。
そして深呼吸。吸つてー、吐いてー、

「げげいじまうおえ」

吐血! ? ついに末期! ? まあ、深呼吸したら口に鼻血を吸い込んじやつただけなんだけど。あれ? もしかして私結構余裕ある? 何かいつの間にか鼻血止まってるし。でも床に軽い血だまりができるね。

「弟くん遅いなあ」

遠くから弟くんの声が聴こえる…。死因は出血多量かなあ。

『お母さん! 何処にいるの? お姉ちゃんが!』

弟くん、バケツと水と雑巾だけ持つてきてくれればいいのよ。お母さん呼ばなくとも大丈夫だから。早く持つてきてー。

「でも可愛いから許す!」

力んだら頭がフラッときたよ。

「お姉ちゃん頭押さえてどうしたの? 大丈夫?」

やつと寝つけてくれたね。愛しの弟くん。

「お姉ちゃんの頭はこつでもお熱ダヨ 」

「お姉ちゃん熱あるの?」

そんな心配そつな顔を近づかなこでえ…。弟くんのひんやりした手が

「(・・)イイー」

これはヤバいですよ。貧血で弱つてるとこに弟くんは刺激が強すぎますよ。天然ジゴロは恐ろしいですよ。でも弟くんは可愛いですよ。

「ハアハア…」

弟くんがこんな近くに。

「ちょっと熱いなあ。息も荒いし、寝てた方がいいんじゃない?」「いいいい一緒に寝てあげてもいいわよつー」

あれ? 私トウンテンですか? 伝説の3・フトウンテンですか? そうなると天然系田舎派幼なじみと弟くんを取り合つこと? 「一緒に寝て欲しいの? いいけど、先にこっこを片付けてからじやないと。後で行くからお姉ちゃんは寝て」

ママママママジツすか! ? 本気! ? 本当! ? マジツすか

！？

「ハアハア……じゃあ先に……ベッドに……行つてゐからね……」

「ハバい！ お母さん！ 私、大人の階段登つちやうよ！ うはー！ 興奮してきた！ さつきから興奮してた！ ああ……血が足りない……。

「あ

何か蹴つた。

「あ

ゲーム機踏んだ。

「ああ……

ゲーム機が

「潰れた……」

踏み潰してしまつた……orz

「最近のゲーム機つて薄型だよねえ」

オワタ。

ゲーム機オワタ。

「弟くん。私も掃除するよ」

「うん」

それは永遠に終わらないループの物語。
始まって、途中からまた始まりに戻る物語。
終わりはいつ訪れるのか。

そもそも、終わりはあるのか。

しかし、ここに一つのループがひとまずの終わりを迎えた。
彼女がゲーム機を踏み潰すという結末で。
彼女曰く、「

『ははは、見る。ゲーム機がゴミのようだ』

だそうだ。

ダメだ。

この姉早く何と

か出来ないね。

おしまい
ノシ

(後書き)

評価・感想いだだけると春野が跳んで喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2970h/>

るう～ぶL P

2010年10月10日07時49分発行